

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	国際大学
整理番号	B21
構想名	I U J Evolution -アジアのグローバル・スタンダードを世界標準へ-

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、国際社会で活躍できる高度な専門知識を持った職業人の育成を実践する大学院大学としての実績と特性を活かし、「東南アジアを中心としたダブル・ディグリー構想の拡充と海外拠点の設置構想」、「アフリカにおける戦略的展開、国際協力人材育成プログラムの拡充」及び「新設の言語教育研究センターを中心とした日本語教育」等の取組により、更なる国際化とグローバル人材の育成を目指すものである。</p> <p>構想の実現のため、大学評議会と運営委員会を統合した大学運営委員会を最高意思決定機関に定め、スーパーグローバル大学推進室を設置するなど、学長のリーダーシップの下でガバナンス体制が順調に整備されている。また、多様な国々とのリンケージ・プログラム(ダブル・ディグリー・プログラム)の展開や、「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)」を活用したアフリカ諸国からの留学生の受入れ、国際認証評価機関AACSBによる認証受審に向けた国際通用性のある教務システムの改善が進められている点は評価出来る。</p> <p>その一方で、全学生数に占める日本人学生を最終目標値の30%に向けて増加させることが今後の課題である。また、欧米志向の日本人学生獲得の方策としての欧米トップ大学とのリンケージ・プログラムの準備は成されてはいるものの、相手側大学の数が少なく、まだ協議の段階に留まっている。アジアへの日本人学生の留学に関しても、「海外インターンシップ科目」と「海外ボランティア科目」は共にカリキュラムを含めた教育内容を検討中であり、早急な開講が望まれる。また、単位取得を伴う海外留学経験者数や大学間協定に基づく日本人派遣学生数等については設定した数値目標に達していないことから、より一層の努力を期待したい。</p> <p>インターナショナル・アドバイザリー・ボードやAACSB等の議論を踏まえて、本構想の実現に向けた真摯な取組が成されることを強く要請する。</p>	